てらこや便り　わあい♪

2022．12．2　No．82

日	月	火	水	木	金	土
12月				○1	○2 智咲 8歳♪	3
4	○5	6	7 収穫のお祝い	8	○9 弥山登山	10
11	12	13	14	15	16 陽里 9歳♪	17
18 31日 紬希 8歳♪	19 おひさまタイム	20 弥八11歳♪	21 しめなわ作り	22	2学期　23 おわりの日 てらこやカフェ 15:40～	新学期は1月10日（火）スタート♪

○ おべんとう or こどもたちがお昼ごはんを考える日（緑色の日）：1～5日，9日（木）　＊青字・・・・・誕生日♪

お知らせ

修学旅行報告会，近日中に♪

てらこやカフェ 23日（金）15:40～

（来週できたら，メールでお知らせします。）

２学期をふりかえってのお話です。おうちでのこどもたちの様子や変化なども聞かせていただけたらうれしいなあと思っています。(*^^)v

弥山登山

今年も弥山登山は宮島集合！グループごとに電車やフェリーの時間を調べて行きます。帰りはみんな一緒に電車で帰ります。それぞれの駅へのお迎えをお願いする予定です。（１７時ごろ）よろしくお願いします♪

～ふつくんのコーナー～　「ミニ修学旅行に行ってきたよ」

今回のミニ修学旅行では、みんなのチャレンジを見守る側に僕はいた。口出しはせず、みんなに連れて行ってもらうというスタンスだ。電車の時間を調べ、水族館の料金を調べ、しおりを作って準備万端。集合時間にみんな遅れることなく、岩国での乗り換えも事前に電話で聞いた甲斐もあり、とてもスムーズに行き、何事もなく広島駅に着いた。

ここで、第一関門。ホームに降りたあとはどうするんだっけ…？企画したメンバー（英信、そら、海土、緑大、つばめ）に皆んなの視線が移る。「トイレに行きたい～。」とか、「改札にいくんだよね？」など様々な質問が投げかけられる。すこし戸惑う様子を見せる企画メンバー。他のお客さんの流れはなんとなく階段をあがった方に向かっている。「よし！上に行こう。」空が言った。何となく流れについていく形で階段を上がると運良く改札とトイレがあった。トイレを済ませ、改札を出た。この後は何とかしてバスに乗らないと行けないことはわかっている。が、目の前には看板がいっぱい…。とにかくたくさん文字が書いてある。分かる文字はあまり見当たらない。平仮名やカタカナが少ないのだ…。この時、僕はまるで初めてドバイ空港に降り立った日本人観光客みたいだな、と思った。人も多いし、情報も多いし、何が何やら分からない。誰かがインフォメーションと書いてある場所を見つけた。タッチパネル式のデバイスにみんなが群がる。何とかしたくて、あれこれ触るが難しい。意見もあれこれでるがまとまらない。そうするうちにバスの予定時刻が過ぎてしまった…。どうしよう…？「駅員さんに聞いてくる！」そう言って、英信とそらと海土が動いた。いい顔で戻ってくる２人。丁寧に教えてくれたようだった。

無事にバスに乗り込みほっと一安心。僕ときくも一安心。終点まで乗ればそこはマリホ水族館だ。

バスを降りると、そこはいろんなお店が立ち並ぶ商業施設だった。その中にマリホ水族館はある。企画メンバーの先導で水族館の場所の確認をした後、お弁当を食べることになった。みんなその辺でお弁当を開こうとするので、僕が提案してヨットハーバーへ移動した。豪華なクルーザーや巨大なヨットに興奮しつつも、「チヌじゃ。チヌがおる！」とか、「あ、クラゲ。」とか言っていつも通りのみんな（笑）。天気も良く、楽しいお昼の時間を過ごした。

そして、お待ちかねの水族館！写真を撮ったり、じっくり覗き込んだりして楽しんだ。アジやイワシの展示を見て、「エサにして釣りたい」という陽里のコメントが面白かった。数年後に閉館すると聞いて、このタイミングで来れてよかったなぁと思った。

楽しい時間はあっという間で、帰る時間になった。僕ときくは行きよりも帰りの方を心配していた。バスの乗り換えがあり、行きとは違うJRの駅から電車に乗るからだ。みんなでバスを降りた所まで移動し、どこに乗るべきバスが来るのか悩んでいたら、ちょうど向かい側にバスが来た。走って飛び乗るみんな。「本当に大丈夫？」きくの声かけに宗慈が反応してくれた。目的の停留所まで着くか運転手さんに確認してくれた。バスの乗り換えについて企画メンバーがよく分かってないのを感じ取ってくれていたからだ。帰りは「西税務署入口」で降りて違う路線の「アルパーク行」のバスに乗る必要がある。電車と違ってバスの乗り換えは停留所を歩いて探さないといけない。しかも、土地勘がないから車道を挟んでどちら側にある停留所を見つけるべきか分からない。この旅の第二関門だ。案の定、西税務署で降りたあと困った。しおりを見ても停留所の地図は用意していない。なんとか停留所を見つけるも、調べた行き先がどこにも書いていない。企画メンバー同士で責任のなすりつけ合いが起きた。他のメンバーからも不満の声があがる。きくが現状の整理をしてくれて、「分からないならみんなで協力して帰るしかない」ことを確認した。この時、企画メンバー頼りだったみんなが自分事として考え始めたように感じた。そして、宗慈が道を挟んで反対側の停留所を指差し、そこの時刻表を見てもいいか？とみんなに聞いてくれた。間違ってたらごめん…、と言いつつ全員で移動した。そこに着くと…、しおりに載っている時刻に発着するバスがあった！行き先は「アルパーク行」！やったぁ！みんなが嬉しい瞬間だった。その後、バスを降り、無事に予定通りの電車に乗りこむことができた。帰りの電車の中、みんないつもより疲れているようだった。田布施駅でミーティングした時、「1日がはやく感じた。」という言葉がでた。本当にその通りだっただろうなぁと思う。

日常を離れ、困難があり、喜びがあり、協力して道筋を見出す、旅の醍醐味に満ちたいい旅だった。